

## 男鹿山塊の沢

加藤谷川流域三倉沢 1990年7月28日

L5

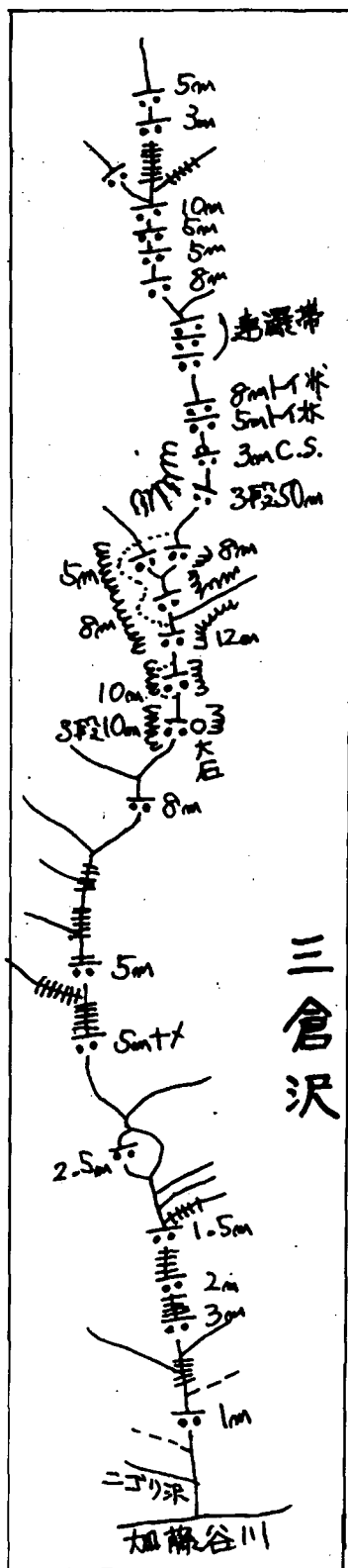
三倉沢は、「男鹿山塊で最も豪快な沢登りを楽しむことができる」とある本に紹介されている沢。私は、若干の不安と大きな期待をもって出発しました。

林道より踏跡をたどって加藤谷川本流に降り立つと、ちょうどそこが三倉沢の出合で、8:05遡行を開始しました。まもなく、ニゴリ沢出合。しばらくはナメと小滝をまじえ、天気の良いこともあって、気分の良い川原歩きが続きました。ポンポンと調子よく跳んでいくと、調子に乗りすぎてバランスを崩しそうになったりしながらも、ハイペースで進んでいきます。

9:20左岸より支流が合わさり、5m程度の滝も現われてきました。次に流石山からの支流が、ナメで合流してきました。ナメ滝やナメが続き、大倉山からの支流との二俣。水量比4:3です。8m滝を登ると二俣となり、右へ進みます。水量比は3:2です。

ここからが三倉沢の核心部となり、大石のそばにかかる3段10mの滝を登り、次の10mは左を搦きます。そして、12mはアンザイレンして直登しました。そこは威圧感のある岩壁に囲まれたゴルジュとなり、すばらしい眺めです。8m滝は右から支沢をかけ、その上で二俣となり、右俣は8m、左俣は5m滝で分かれています。はじめの8mと左俣5mを左より搦き、トラバースして右俣に進みました。

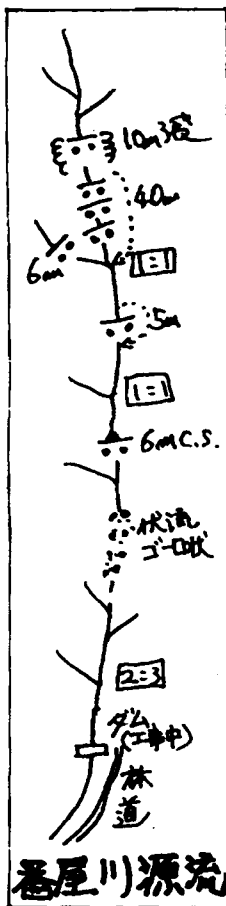
右俣に進むと、3段50mの大滝で、下段10mを登ると、次の25mは滝の右壁をブッシュを頼りに少し



強引に登り、滝の水流右の小テラスにトラバース。その上の繩状10mは、シャワーで登りました。最後の15mは、問題なく直登です。この上はチムニー状の滝となり、ぐんぐん高度を上げていきました。

源流となり水量も少なくなると、40m程のナメとなります。フリクションで登ろうとしてスリップ。10m程滑落してしまい、痛い思いをしました。そのあとは、そばの細い枝をつかみながら、慎重に登りました。14:20水が消え、ヤブこぎとなり、10分程で稜線に出ることができました。 (記)

[タイム] 三倉沢出合(8:05)→大倉山よりの支流との出合(9:45)→大滝(12:00)→稜線(14:30)



### 巻屋川源流 1990年7月28日

三倉沢をつめて稜線に出、1854mの三角点にタッチして、14:50巻屋川めざして下降を開始しました。ヤブをこいで降りていくと、沢状にはなるものの水が出ては消えという状況です。傾斜もゆるやかで、がっかりしてしまいました。

15:30ようやく水が流れ出すと、突然3段10mの滝が現われ、びっくりしてしまいました。そのうえこれをクライミングダウンすると、6mの滝。そしてその下は40mはあろうかという繩状の滝です。これは左岸の樹林帯に取り付き、捲きました。

16:25二俣となり、水量比は1:1です。左俣には6mの滝も見えます。本流は5m滝で左岸より捲きました。さらに1:1で右岸より支流を加えると、沢は次第にゴロ状となってきます。6mのチョックストーン滝をすぎると沢は伏流になり、大きな石が転がっていて、降りるのに難渋しました。

水が出てきて二俣をすぎると、堰堤の工事現場となり、17:25下降終了。安張沢に入った西さんたちが出迎えてくれるはずでしたが、途中で林道工事が行われていて車が入って来れず、林道を1時間余も歩くこととなってしまいました。

(記)